

人気のアイテムを
使いこなそう！

コロコン

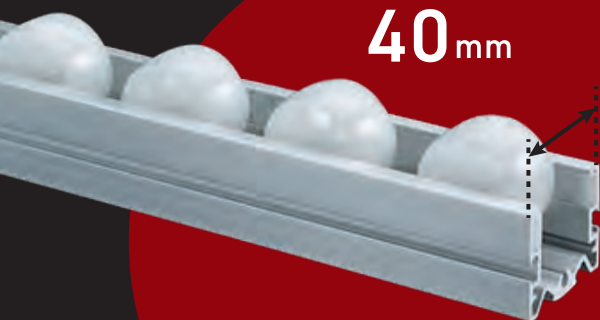
No.2

ノーマルコロコンとワイドコロコン

フレームの幅が違えばワークと接触する面積が変わり、ワークの転がり方や耐荷重も変わってきます。ワークの形、重さ、素材がプラスチックか段ボールかによっても変化します。適切に使い分けましょう。

アルミコロコン 3520P50

フレーム幅
40mm

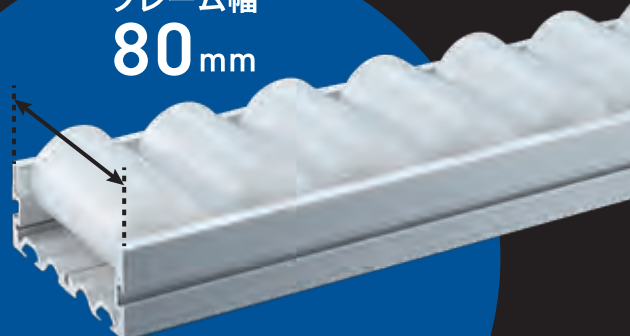


ワークが転がりやすい

回転するホイールの「直径が大きい」「幅が狭い」「ピッチが広い」と摩擦抵抗が少なくなるため、ワークが転がりやすくなります。

アルミコロコンワイド 3362P40

フレーム幅
80mm

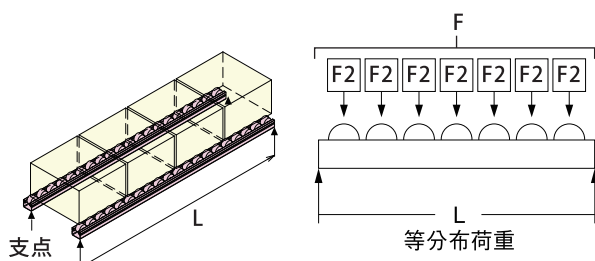


耐荷重が大きい

フレームの幅が広いいためワークの姿勢が安定し、またコンテナの裏面にあるメッシュの影響を受けづらく耐荷重量が大きくなります。

コロコン耐荷重

水平の2本のコロコンに等分布荷重をかけて長さ(Lmm)の2/1000mm たわみ荷重



アルミコロコン3520P50

コロコンフック	F:コロコン耐荷重目安(N)			F2:コロ1個あたり 負荷目安(kg)
	1000mm	2000mm	3000mm	
コロコンフックA/B	365	110	50	10
アルミコロコン用フック(アルミ)				10

アルミコロコンワイド3362P40

コロコンフック	F:コロコン耐荷重目安(N)			F2:コロ1個あたり 負荷目安(kg)
	1000mm	2000mm	3000mm	
コロコンワイドフックA/B	460	135	60	20
アルミコロコンワイド用フック(アルミ)				20